

Quality is more than a word

ESPEC

第 68 期

## 中間株主通信

---

2020年4月1日から2020年9月30日まで



# 株主のみなさまへ



神戸R&Dセンター ビオトープにて

代表取締役社長 <sup>いしだ</sup>石田 <sup>まさあき</sup>雅昭

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

2020年度 第2四半期累計期間(2020年4月1日～9月30日)の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により経済活動が停滞し急激に悪化いたしました。中国など一部では経済活動の正常化が進み、輸出や個人消費は緩やかな回復基調となりました。しかしながら、新型コロナウイ

ルス感染症収束の目処は立っておらず、先行き不透明な状況が継続しております。

当社の主要顧客におきましては、自動車やエレクトロニクス全般において国内外で投資の抑制傾向が継続いたしました。当社の取り組みといたしましては、移動制限などの制約を受ける中、オンラインでの営業活動を推進するとともに、5GやIoT、自動車の自動運転・電動化に関する市場を中心に活動を強化いたしました。

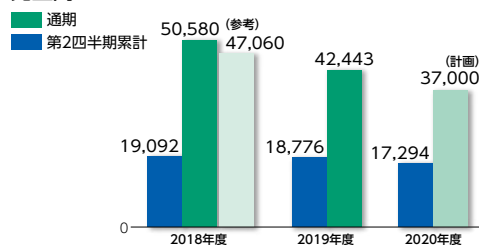
主力の環境試験器につきましては、国内市場では汎用性の高い標準製品、カスタム製品ともに受注高・売上高は前年同期比で減少いたしました。海外市場では、中国、東南アジア、台湾の売上高は前年同期比で増加いたしました。欧米は減少いたしました。

こうした結果、連結業績といたしましては、前年同期比で売上高は7.9%減少となりました。利益面につきましては、売上高の減少や原価率の悪化により営業利益は47.1%減少し、親会社株主に帰属する四半期純利益は52.8%減少となりました。中間配当金につきましては、1株当たり10円とさせていただきます。

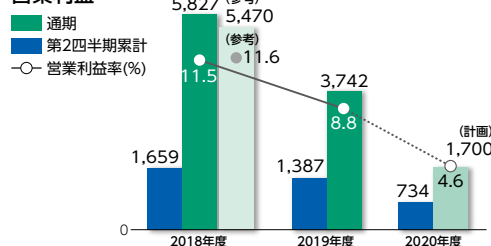
なお、2020年11月13日に、当第2四半期の業績を踏まえて通期の連結業績予想について利益を修正しております。通期の連結業績につきましては、売上高は37,000百万円、営業利益は1,700百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,200百万円を計画しております。配当金につきましては、期末配当金は1株当たり30円、年間で40円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

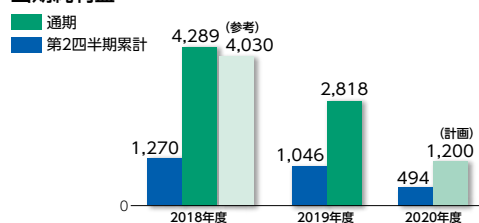
### 売上高 (百万円)



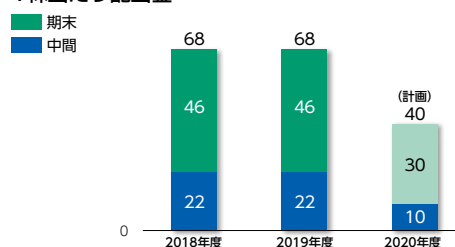
### 営業利益 (百万円)



### 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



### 1株当たり配当金 (円)



※ 2018年度通期は、海外連結子会社の決算対象期間が15カ月となる変則決算  
 ※ (参考)は、海外連結子会社の決算対象期間が12カ月であった場合の業績

## 神戸R&Dセンターに技術開発棟を竣工

今年3月、当社の研究開発拠点である神戸R&Dセンターに新たな技術開発棟を竣工しました。今回の特集では、新しい技術開発棟についてご紹介します。

### 環境創造技術を強化し 新たな環境因子技術や環境配慮製品を創出

神戸R&Dセンター（兵庫県神戸市）の新しい技術開発棟は、オープンイノベーションの促進による技術開発力の強化と生物多様性保全の推進を目的とした施設です。ここでは、新しい環境因子技術の創出や、地球環境負荷を低減した製品の開発、医療・食品・マテリアルといった新規事業分野における技術開発に取り組みます。

技術開発棟では、社外の方と共同で実験を行う

「オープンラボ」のほか、商談など多目的に使用できる大会議室「オープンカフェ」を設置しています。開発中の環境試験器を公開してお客さまをはじめとする社外の方のご意見を製品開発に活かすとともに、大学や研究機関との連携による技術の融合でイノベーションを促進してまいります。

また、社員が働く場所を自由に選べるフリーアドレス制の導入や、リラックスして思考を深めることができる「アイデアラウンジ」の設置など、社員が創造性を発揮できる職場環境づくりを行っています。



神戸R&Dセンター 技術開発棟（兵庫県神戸市）



新技術・新製品を創出する実験室



白を基調としたエントランス



社員の思考を深めるアイデアラウンジ

## 5GやIoT、自動運転の分野における 先端技術開発に貢献

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大でテレワークなどが常態化し、デジタルインフラの整備に向けた技術開発が急がれています。また自動車分野では、環境規制の強化に伴う電動化や、交通事故低減に向けた自動運転技術の開発が加速しています。

当社はこうした先端技術の品質や安全を確保するための装置を開発・提供することで、社会課題の解決に貢献してまいります。

## 六甲北部の在来種にこだわった屋上緑地 生物多様性保全を推進

神戸R&Dセンターの敷地内には、エスペックの森やビオトープがあります。さらに今回、技術開発棟の屋上にも六甲北部の在来種にこだわった草地を育成し、森、水辺、草地が一つにつながる自然豊かな環境を整えました。今後も本事業所を拠点に、企業や学生の方々が生物多様性について学ぶセミナーを開催するなど、生物多様性保全に向けた活動を推進するとともに、環境保全事業の拡大につなげていきます。



エスペックミック施工の屋上緑地



屋上緑地では六甲北部の希少な在来種を育成



カンサイタンポポ



コマツナギ



多目的に利用可能なオープンカフェ

### 神戸R&Dセンター

所在地：兵庫県神戸市北区鹿の子台南町5-2-5

総面積：31,911㎡

〈技術開発棟〉

建屋面積：4,395㎡（鉄骨造3階建て）



## 経済産業省 2020年版 「グローバルニッチトップ企業100選」に選定

6月、経済産業省の2020年版「グローバルニッチトップ企業(GNT)100選」に選定されました。2013年度に続いての受賞となります。

「GNT企業100選」とは、経済産業省が特定分野での高いシェアや国際競争力を持つ企業を認定・顕彰するもので、2013年度に創設されました。2度目となる2020年版「GNT企業100選」では、国際情勢が変化する厳しい経営環境の中でもニッチ分野で勝ち抜いている企業などが113社選ばれました。このうち、2013年度に続いて受賞したのは当社を含め13社となります。審査にあたっては「世界シェアと利益の両立」「技術の独自性と自立性」「サプライチェーン上の重要性」などが評価されました。



## New 自動車市場向け製品のラインアップを拡充 ハイパワー恒温(恒湿)器 ARシリーズ

8月、ハイパワー恒温(恒湿)器 ARシリーズの急速温度変化タイプの新ラインアップを拡充しました。

ARシリーズ 急速温度変化タイプは、急速な温度変化に対する車載用部品などの耐久性を評価する装置です。欧州などの自動車メーカーが車載用部品メーカーと取引をする際に実施を求めている国際標準IEC規格やドイツ自動車業界規格LV124に適合した試験を行うことができます。今回新たに、温度変化速度10℃/分で内容量1100Lの装置と、15℃/分で680Lの装置(各湿度制御あり/なし)、計4器種を発売しました。これにより、ARシリーズは計32器種となり、お客さまの試験の目的に応じて、最適な器種を選んでいただきやすくなりました。



自動車市場向け  
ハイパワー恒温(恒湿)器 ARシリーズ 急速温度変化タイプ  
(左:10℃/分 1100L、右:15℃/分 680L)

## 「バッテリー安全認証センター」に 国内最大規模の大型試験装置を設置

6月、車載用バッテリーの安全性試験から認証申請までをトータルに行う「バッテリー安全認証センター」(栃木県宇都宮市)において、国内最大規模の温度サイクル試験装置を新たに設置しました。

近年、車載用バッテリーの開発では、バッテリーの発熱対策として冷却機構や保護機構などの機器を備えた大型のバッテリーパックシステムの開発が進んでおり、その安全性試験ニーズが高まっています。新たに設置した装置は、2mを超える大型パックシステムの温度サイクル試験が可能で、国連規則や国際規格に定められた試験にも対応しています。今後も当社は、最新の試験設備と高い試験技術で車載用バッテリーの高まる試験ニーズにお応えしていきます。



国連規則に定められた車載用バッテリーの安全性試験を行う  
大型温度サイクル試験装置

## ゴーヤカーテンの普及・啓発に貢献 京都府環境保全功労者表彰を受賞

6月、京都府環境保全功労者表彰(団体・環境トップランナー部門)を受賞しました。

京都府環境保全功労者表彰は、環境保全活動や環境保全行政の推進に顕著な功労があった個人および団体に対し、その功績をたたえ表彰するものです。受賞にあたっては、当社の福知山工場(京都府福知山市)が、長期にわたってゴーヤカーテンの普及啓発を中心とした環境学習に率先して取り組み、全国でも先んじて地域と連携した啓発活動を推進したこと。また、環境教育を行う人材育成および体験活動を実施し、環境保全型ライフスタイルの定着に貢献したことが評価されました。



小学校でのゴーヤカーテン普及・啓発セミナー

## 経営体制のご紹介

2020年6月開催の第67回定時株主総会で取締役・監査役が選任され、取締役8名、監査役4名の体制となりました。当社の経営体制をご紹介します。



(前列左から)	取締役 上席執行役員 未久 和広	社外取締役 小杉 俊哉	代表取締役社長 石田 雅昭	社外取締役 長野 寛之	常務取締役 島田 種雄	取締役 上席執行役員 荒田 知
(後列左から)	取締役 執行役員 淵田 健二	取締役 執行役員 浜野 寿之	社外監査役 山本 哲男	社外監査役 堤 昌彦	社外監査役 田中 崇公	常勤監査役 石井 邦和
	上席執行役員 村上 精一	上席執行役員 大島 敬二	執行役員 西谷 淳子	執行役員 渡部 克彦		



# 株主アンケート結果のご報告

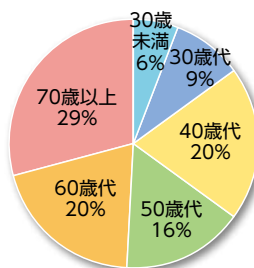
第67期株主通信のアンケートでは多くの株主さまからご回答をいただきました。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。  
みなさまからの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後のIR活動に活かしてまいります。

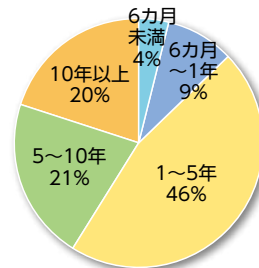
ここに、株主さまからの声を一部ご紹介します。

ご回答者数 **2,004**名 (男性: 75% 女性: 25%)

世代別



当社株式保有期間



## 株主さまからの声

### 新型コロナウイルス対策について知りたい。

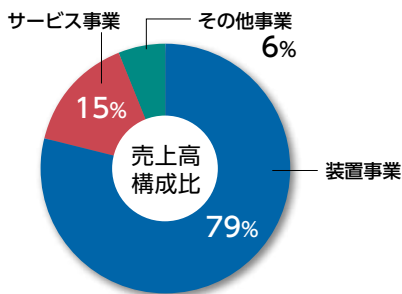
当社は社員の安全確保と事業継続に向けて、執務エリアの消毒・換気やソーシャルディスタンスの確保など、さまざまな新型コロナウイルス感染防止策に取り組んでいます。在宅勤務制度においては、従来、育児や介護などで勤務時間に制約がある社員のみを対象としていましたが、今年2月より自宅で勤務可能な全ての社員に対象範囲を拡大しました。お客さまとの商談や展示会の開催、社内会議、研修、採用活動など、さまざまな事業活動においてオンラインを活用した取り組みを推進しています。今後も適切な感染防止策を実施したうえで事業の継続に努めてまいります。

### SDGsの取り組みについて知りたい。

今年4月に「サステナビリティ推進室」を設置し、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する取り組みを始めました。当社の企業理念や中期経営計画とSDGsとの関係を明確にするとともに、社員の理解浸透に向け、SDGsと当社の事業との関係について説明した動画を作成して社内教育を実施しました。今後も事業活動を通じてSDGsの達成に貢献してまいります。当社のSDGsへの取り組みは、ホームページのサステナビリティサイトでも紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://www.espec.co.jp/sustainability>

# 事業セグメント別概況



## 〈装置事業〉

- 環境試験器
- エナジーデバイス装置
- 半導体関連装置

## 〈その他事業〉

- 環境保全  
森づくり・水辺づくり・都市緑化
- 植物育成装置  
植物工場、研究用育苗装置

## 〈サービス事業〉

- アフターサービス・エンジニアリング
- 受託試験・レンタル

## 装置事業

環境試験器では、国内市場において、汎用性の高い標準製品、カスタム製品ともに受注高・売上高は前年同期比で減少しました。海外市場においては、中国、東南アジア、台湾の売上高は前年同期比で増加しましたが、欧米は減少しました。

エナジーデバイス装置では、二次電池評価装置、燃料電池評価装置いずれも低調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに大幅に減少しました。

半導体関連装置では、受注高は前年同期比で減少しましたが、売上高は前期に受注したバーンインシステム・チャンバーの売上計上があり増加しました。

装置事業全体では、前年同期比で売上高は9.2%減少し、営業利益は、売上高の減少や原価率の悪化により43.8%減少しました。

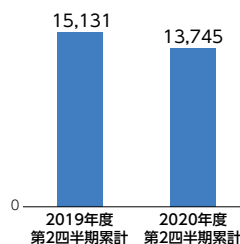


半導体検査用  
バーンインチャンバー

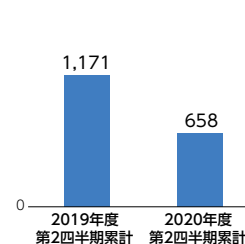


パワー半導体用  
パワーサイクル通電試験装置

### 売上高 (百万円)



### 営業利益 (百万円)



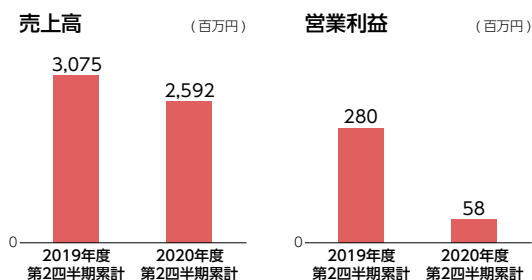
## サービス事業

アフターサービス・エンジニアリングでは、受注高は前年同期並みとなりましたが、売上高は減少しました。受託試験・レンタルでは、主に受託試験が低調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに減少しました。

サービス事業全体では、前年同期比で売上高は15.7%減少し、営業利益は、売上高の減少や原価率の悪化により79.3%減少となりました。



豊田試験所(愛知県豊田市)

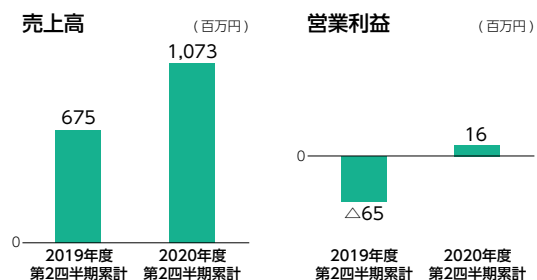


## その他事業

環境保全事業および植物工場事業を中心とするその他事業では、植物工場の大型受注があった前年同期との比較で受注高は減少しました。売上高は、同大型案件の売上計上により前年同期比で58.9%増加し、利益面につきましては、前年同期比で改善し営業黒字となりました。



羽田空港近郊の植物工場では海洋深層水を利用して機能性表示食品のケールなどを生産



# 要約財務諸表

## 連結貸借対照表

(百万円)

科 目	前第2四半期末 2019年9月30日	前年度末 2020年3月31日	当第2四半期末 2020年9月30日
<b>資産の部</b>			
流動資産	38,945	41,428	37,953
固定資産	14,859	16,032	16,489
有形固定資産	10,314	11,631	11,705
無形固定資産	673	696	658
投資その他の資産	3,871	3,704	4,125
<b>① 資産合計</b>	<b>53,805</b>	<b>57,461</b>	<b>54,442</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	10,496	12,775	9,500
固定負債	1,616	1,953	2,166
<b>② 負債合計</b>	<b>12,112</b>	<b>14,729</b>	<b>11,666</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	41,902	43,160	42,894
資本金	6,895	6,895	6,895
資本剰余金	7,120	7,120	7,120
利益剰余金	29,067	30,325	30,060
自己株式	△1,180	△1,180	△1,180
その他の包括利益累計額	△210	△428	△119
<b>③ 純資産合計</b>	<b>41,692</b>	<b>42,731</b>	<b>42,775</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>53,805</b>	<b>57,461</b>	<b>54,442</b>

### ① 総資産

前年度末と比べ3,018百万円の減少となりました。その主な要因は、前年度末に計上された売上債権の回収に伴う受取手形及び売掛金ならびに電子記録債権の減少5,220百万円、現金及び預金の増加1,600百万円、仕掛品等のたな卸資産の増加606百万円などによるものです。

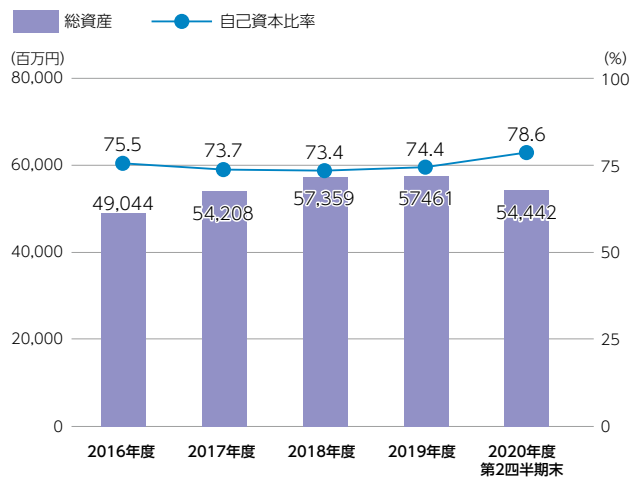
### ② 負債

前年度末と比べ3,062百万円の減少となりました。その主な要因は、営業活動制限に伴う固定費の減少等によるその他流動負債の減少1,898百万円、仕入債務の支払いに伴う支払手形及び買掛金ならびに電子記録債務の減少1,291百万円などによるものです。

### ③ 純資産

前年度末と比べ44百万円の増加となりました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金の増加366百万円、配当金の支払い等に伴う利益剰余金の減少265百万円などによるものです。

## 総資産・自己資本比率



※2018年度より、2018年2月16日公表の税効果会計基準の改正(企業会計基準第28号)を適用しています。2018年度との比較のため、2017年度の総資産も本改正適用後の数値に修正しています。



## 連結損益計算書

(百万円)

科目	前第2四半期累計 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	当第2四半期累計 2020年4月1日から 2020年9月30日まで	前年度 2019年4月1日から 2020年3月31日まで
売上高	18,776	17,294	42,443
売上原価	12,172	11,502	27,724
売上総利益	6,604	5,792	14,719
販売費及び一般管理費	5,216	5,058	10,976
営業利益	1,387	734	3,742
営業外収益	197	117	304
営業外費用	90	17	113
経常利益	1,494	834	3,933
特別利益	—	11	—
特別損失	7	11	13
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,487	834	3,920
法人税、住民税及び事業税	440	339	1,102
四半期(当期)純利益	1,046	494	2,818
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	1,046	494	2,818

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科目	前第2四半期累計 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	当第2四半期累計 2020年4月1日から 2020年9月30日まで	前年度 2019年4月1日から 2020年3月31日まで
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,747	2,938	4,870
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△874	△985	△1,942
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,071	△1,100	△931
現金及び現金同等物に係る換算差額	△176	6	△146
現金及び現金同等物の増減額	1,624	858	1,850
現金及び現金同等物の期首残高	14,929	16,779	14,929
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	740	—
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	16,554	18,379	16,779

### ④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、2,938百万円となりました。その主な要因は、税金等調整前四半期純利益834百万円の計上による資金の収入、売上債権の減少による資金の増加6,027百万円、仕入債務の減少に伴う資金の減少2,491百万円によるものです。

### ⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は985百万円となりました。その主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出1,341百万円によるものです。

### ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は1,100百万円となりました。その主な要因は、配当金の支払額が1,057百万円などによるものです。

# 会社概要・株式の状況・株主メモ

## 会社概要(2020年9月30日現在)

社名	エスペック株式会社
本社	〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
創業	昭和22年(1947年)7月25日
設立	昭和29年(1954年)1月13日
資本金	6,895百万円
従業員数	1,540名(連結) 797名(単体)

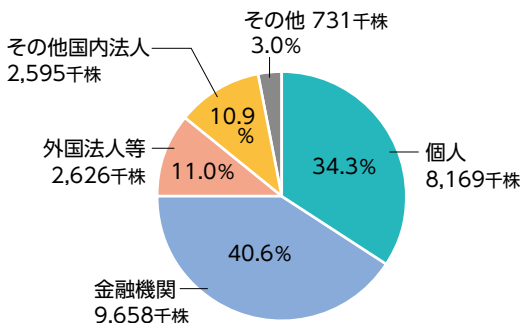
## 役員(2020年6月23日現在)

代表取締役社長	石田 雅 昭
常務取締役	島田 種 雄
取締役 上席執行役員	末久 和 広
取締役 上席執行役員	荒田 知
取締役 執行役員	浜野 寿之
取締役 執行役員	淵田 健二
社外取締役	長野 寛之
社外取締役	小杉 俊哉
常勤監査役	石井 邦和
社外監査役	山本 哲男
社外監査役	堤 昌彦
社外監査役	田中 崇公
上席執行役員	村上 精一
上席執行役員	大島 敬二
執行役員	西谷 淳子
執行役員	渡部 克彦

## 株式の状況(2020年9月30日現在)

発行済株式総数	23,781,394株 (自己株式731,589株を含む)
株主数	6,070名

### 所有者別株式数分布状況



### 大株主

株主名	持株数 千株	持株比率 %
日本マシナリ信託銀行株式会社(信託口)	2,832	11.91
エスペック取引先持株会	2,087	8.77
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,938	8.14
日本生命保険相互会社	790	3.32
エスペック従業員持株会	732	3.07
エスペック株式会社	731	3.07
株式会社みずほ銀行	513	2.15
佐々木嘉樹	500	2.10
株式会社立花エレテック	419	1.76
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	367	1.54

## 株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
中間配当制度	有
基準日	3月31日および取締役会決議によってあらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所	東京証券取引所(証券コード:6859)
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	0120-288-324(通話料無料) (土・日 祝日を除く9:00~17:00)
お取扱店	みずほ証券株式会社 (本店および全国各支店、フラネットプース[株式会社みずほ銀行内の店舗]) みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店)
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) 株式会社みずほ銀行(本店および全国各支店) (みずほ証券株式会社では取次のみとなります)
公告方法	電子公告 電子公告掲載の当社ホームページURL <a href="https://www.espec.co.jp/ir/stock/notice.html">https://www.espec.co.jp/ir/stock/notice.html</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

## お問合せ先

エスベック株式会社 コーポレートコミュニケーション部  
Tel: 06-6358-4744 e-mail: ir-div@espec.jp

## IRサイトおよび決算説明動画のご案内

IRサイトでは、財務・業績データや株式情報などさまざまな情報をご覧いただけます。ぜひご活用ください。

### ■ IRサイト <https://www.espec.co.jp/ir>



### ■ 決算説明会ページでは、2020年度第2四半期決算について説明動画を配信しています。以下のURLまたはQRコードよりご覧いただけます。

#### 決算説明会(説明動画)

<https://www.espec.co.jp/ir/event/presentation.html>



### ■ IRサイトに対する社外評価



証券コード: 6859

エスペック株式会社

